

「薬のことはもちろん、健康について気になることも
なんでも話してもらえる身近な薬剤師に」

彦根薬剤師会 会長 ^{ひきだ} 足田 ^{くにひろ} 州宏 氏 (彦根市・足田調剤薬局)



彦根市の南に位置する田園の多い稲枝地域。この地域で薬局を営まれる、彦根薬剤師会会長、足田州宏先生を訪問しました。(足田先生は、平成 28 年に、彦根薬剤師会の会長にご就任。)

今回は、町の薬剤師として、また彦根薬剤師会の会長として、人々の暮らしの身近にある薬の話や地域住民のとの関係、また療養者への支援などについてお聞きしました。【取材日：2017(平成 29)年 8 月 10 日】

(インタビュアーは、彦根医療福祉推進センター所長 切手俊弘医師です。本文中、青色「」の文字部分。)

姉弟で営む薬局 2 代目 「足田先生の経歴についてお聞かせください。」

「私は彦根市の市街地で生まれ育ちました。父が彦根市の銀座街で薬屋をしていました。その当時は、稲枝では店舗販売業、彦根市街地では調剤薬局をしていましたが、今は稲枝だけで調剤薬局をしていて、私で 2 代目になります。小さいときから薬屋で育ち、学校の先生や周りの人の勧めもあって、だんだんと薬剤師の道に進むようになりました。」

薬剤師の資格を取って、はじめは薬品メーカーで 4 年間勤め、その後、理化学や試薬の販売業を 10 年くらいしていました。実は姉も薬剤師なのですが、姉がこちらで調剤を始めるということで、一緒に調剤薬局をすることになりました。」



地域の薬局として ～気軽に立ち寄れて、お茶でも飲んで、ひといき話して 気分すっきり～

「この店の営業時間は、朝 9 時から夜 7 時までです。地域の薬局は、身近で、薬剤師の顔が見えたり、薬を出しながらちょっとした健康に関する相談事を聞きやすかったり、というような良さがあるのかなと思います。」

うちはお客さんとよくお話します。薬の詳細を説明すると安心されたり、またお客さんも 30 分、1 時間としゃべることによって“しゃべらしてもらって気が楽になった”とって帰っていかれることがありますね。」

「そういうお付き合いができるのはいいですね。患者さんは、薬剤師の先生の一言で安心して元気になっていく、お薬だけではなく、丁寧な説明や安心感が治療に大きく影響しているということは私たちもよく経験しています。」

きちんと服薬してもらうために ～お薬の管理、残薬について～



「私たち薬剤師は、処方された薬をきちんと飲んでもらわないといけません。そして、飲んでもらう以上、副作用があることをお知らせしなければなりません。残薬の問題もありますが、副作用をある程度お知らせすると、“こんなきつい薬を飲まないといけないのか”と言われることもあります。やっぱり薬剤師としては伝えないといけませんよね。何とか説明をして納得いただいて、飲んでもらえるようにしているのですが、拒まれる方も中にはいらっしゃいます。『絶対飲んでくださいね』と、一生懸命お願いしないといけないときもあります。」

「そうですね。薬剤師さんの一言が患者さんにとってすごく影響を与えるということは、ある意味専門職のやりがいというところもあるのかなと思います。服薬指導は大変ですね。」

ご存知ですか？「残薬回収袋」



「残薬については、今、大きな課題になっていますね。」

滋賀県薬剤師会では、青い残薬回収袋を活用して、残薬を改善する取り組みをされていますが、残薬に対する意識は、ここ最近変わってきているのでしょうか。」

「まだまだではないかと思えます。患者さんは残薬があっても、そのことを主治医にお話されない場合も多いですね。薬が残っている場合、次に出してもらう薬で調整してもらうといいのですが、言い出しにくい方もおられるようです。」

また、入院などによって、薬が全て変わった時は、前の薬を全部捨てるようにお伝えしていますが、薬が残ったままの方が多く状況です。薬の管理は非常に難しいですね。」

医師との関係について

「薬のことで医師と相談をされることはよくあるかと思いますが、専門職同士の結びつき、チーム医療や連携ということについて、どのように思われますか。」

「やはり患者さんの薬の相談をする時に、医師の顔が見えているといいですね。また在宅医療となると、余計に顔が見えているほうが良いと思っています。」

薬剤師が在宅に行って、患者さんとお話していて、何か気になることがあった時に、その方の主治医を知っていると、すぐに連絡が取り合えると思います。普段からできるだけ医師の方々と顔が見えて、しゃべれる状態にしていくと、よりよく在宅でのチーム医療は進んでいくと思います。」

多職種とのつながり 顔の見える関係づくり

「薬剤師の方々は、他の医療福祉の職種とのかかわりでは、医師以外で関係が多い職種はどういった方々ですか。」

「今はケアマネジャーさんと電話で薬のやり取りをすることもありますが、看護師さんもよく薬のことは知っておられますが、質問はいただきます。皆さんが互いに顔を知り合えるような存在になるとチーム医療は進んでいくと思いますね。」

薬剤師が、ケアマネジャーさんや看護師さんと集まって、合同で何かがやれて、みんなが顔の見える存在になると、よりよい支援ができるのではないかと思います。「この前もこの人を見たな」というだけでも、一度相談してみようという気になりますからね。そうやって一言をしゃべることによってチーム作りができると思います。顔が見える存在でないと、チームケアはうまくいかないとはいけません。」

ここ最近では、私はいろいろなところへ顔を出すことで顔を知っている人は増えてきています。

しかし、多職種の方との交流の場に出たいという気持ちはあっても、例えば、ことう地域チームケア研究会（*注釈）が開催されている、その時間は出られないという方もいるので、いろいろな時間帯に集まりがあるといいと思います。」

*注釈「ことう地域チームケア研究会」：湖東圏域の医療福祉専門職、関係者を対象とした研修、交流の場



病院と薬局の関係



「今、病院の院外処方箋を地域の薬局にお願いしていますが、病院の薬剤師との関係で、感じていることはありますか。」

「そうですね。病院の服薬指導と薬局での服薬指導とが違うことで患者さんが違和感や不信感を持ってしまおうといけませんので、きちんと服薬できるように、病院での患者の様子が薬局でも分かり、副作用の説明の面でも連携が取れて服薬管理がスムーズにいくとよいなと思っています。」

在宅訪問について 「薬剤師の在宅訪問についてですが、今、彦根薬剤師会ではどのような状況でしょうか。」

「うちは薬剤師が、姉と私の二人いますので、いろんなところへ出かけることはできますが、薬剤師がお一人の薬局の場合は、開局時間中には在宅訪問が難しい状況もあります。」

しかし、2025年までに、病院のベッド数の削減や、在宅医療への移行が進められていきますので、在宅患者さんが増えてくると言われています。今後は、全部の薬局で居宅療養管理指導（*注釈）ができるような方向で、考えていけるとよいと思っています。薬剤師会としても今から少しずつ進めていきたいと思っています。」

*注「居宅療養管理指導」：「医師、歯科医師、薬剤師、看護職員、歯科衛生士又は管理栄養士が、通院が困難な利用者に対して、その居宅を訪問して、その心身の状況、置かれている環境等を把握し、それらを踏まえて療養上の管理及び指導を行うことにより、その者の療養生活の質の向上を図る」（「指定居宅サービス等の事業の人員、設備及び運営に関する基準（平成11年厚生省令第37号第84条）より一部抜粋）

地域での薬局・薬剤師の役割 「薬剤師として、湖東医療圏の住民の皆さんにメッセージをいただけますか。」

「薬局は、医者でもない、看護師でもない、ケアマネジャーでもない、ほんとに患者に近い立場にあると思います。ですから、医療で分からないことがあったら、一回薬局に寄ってもらって尋ねていただければ、アドバイスはできると思いますので、みなさんにどしどし、薬局にきて相談してもらえたらと思います。食事指導なんかもできる薬局もありますよ。どこの薬局でも優しい先生ばかりですので、立て込んでいなければ応えていただけると思います。お店によって違うかもしれませんが、一日の忙しさで言うと、午前よりも午後の時間帯、2時から4時頃までが比較的よいのかなと思います。」



『気軽にお話してみてください』

「こんなことがありました。高齢のご夫婦でしたが、怪我をして病院にいて、帰ってきて、さてこれからどうしようといいながら薬をもらいに来られたことがありました。詳しく話をお聞きすると、困っていらっしゃる様子でしたので、介護保険や介護サービスのことなどについてお話をしました。そしたらすぐに関係機関に相談に行ってくると言われ、その後、手続きができ、ケアマネジャーさんもついてくれたそうです。先日、だいぶ歩けるようになりましたって喜んで報告してくれました。」

こんな風に、よろず相談で、薬局に来ていろいろ尋ねてもらえたら、わかる範囲で、幅広い情報をお伝えできると思います。」



「足田薬局」

こちらが開業当初のお店の看板だったそうです。



インタビューの切手俊弘医師と記念撮影。

薬局、薬剤師は、医療の敷居を低くして、また目線を広くして、「地域住民の皆さんの健康の窓口」「患者さんのよろず相談所」そして「医療職と介護職をつなぐ」存在として、地域医療・介護に欠かせない存在であることをあらためて感じました。薬剤師の先生方の素晴らしさ、役割を、もっともっと広めていきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いたします。